

高山市の1年間

1～6月の主なできごと

飛驒牛、香港へ初輸出(1月7日)

これまでは県外施設を通じて海外出荷していたが、J A 飛驒ミートの施設改修により衛生面がクリアされ認可。タイ、マカオ、シンガポールに続く4例目。

焼岳の火山防災計画を策定(2月23日)

気象庁が焼岳の噴火警戒レベル導入を前に、高山市や松本市などで組織する対策協議会が「防災計画」を策定。

新しいバス運行がスタート(3月1日) PHOTO

運行路線や運賃体系などが大幅に変更した新しいバス運行が開始。

東日本大震災の発生(3月11日)

市内では丹生川町や奥飛驒温泉郷地内で道路に、水道施設では3カ所の簡易水道にそれぞれ被害。

本郷小と宮中の改築工事完成(3月)

本郷小は屋内運動場を、宮中は校舎と屋内運動場をそれぞれ改築。

飛驒高山まちの博物館 オープン(4月11日) PHOTO

旧矢嶋邸跡の歴史的な建造物を旧郷土館と一体的に整備。城下町高山の新しい交流拠点としてオープン。

新しい定数の市議会議員選挙が行われる(4月24日) PHOTO

36人から24人に削減された市議会議員選挙が執行。5月の臨時会で、議長に車戸明良さん、副議長に小井戸真人さんを選出。

松本市・高山市姉妹都市提携40周年記念式典(5月29日) PHOTO

野麦峠で記念式典を開催。また10月から11月にかけて、市内観光施設などを訪れていただいた松本市のみなさんに記念品を贈呈したほか、松本市民との交流活動などを紹介したパネル展を開催し、両市民の交流をさらに推進。

上高地土砂崩れに伴い、高山市側へ観光客を受入れ(6月24日)

松本市の応援要請を受けた市では、平湯に現地対策本部を設置。上高地で一晩足止めされた観光客約600人を、バスで平湯バスターミナルに搬送し、同地で食事などを提供。



新しい公共交通「まちなみバス」も運行を開始



上之一町にオープンした「飛驒高山まちの博物館」



車戸明良 議長



小井戸真人 副議長



松本市と高山市の一層の友好関係を構築する共同宣言に署名した両市長と、宣言文を読み上げた両市の中学生



J A ひだ高山トマト選果場(漆垣内町)に設けられた救援物資受付場所には、多くのボランティアの姿もありました。

また、福島第一原発の事故を受け、市は独自で水道水や土壌の放射性物質、空間放射線量を測定し、市民のみなさんや観光客にもその結果をお知らせしています。

震災発生直後、市では避難者の受入れと被災地の支援を進めました。避難者の受入れにあたっては秋神の家や市営住宅を提供。また被災地支援として消防職員などを現地派遣したほか、救援物資や義援金の募集を行いました。あわせて、市内事業者への支援(震災枠融資ほか)にも取り組みました。

Pickup
ピックアップ

東日本大震災と
市の取り組み